

令和3年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会 会議概要

<開催日>

令和3年7月9日（金）

<場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（22名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、武山昭英、馬場章夫、古川哲也、青山豊、安齋正義、丸山由美子、今井康之、東章司、山室由実、太田正一、的場美規子、安藤博子、金子和子、桑原ようへい、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男、三井梨紗子事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【村岡座長】

皆さん、こんにちは。

本日はご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

只今より、令和3年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会を開催いたします。

次第に入る前に、年度が代わり、新たに委員の交代がございましたので、改めて当協議会について説明いたします。

当協議会は、区民や関係団体、新宿区が、東京2020大会に向けて、一体となって地域の発展に取り組んでいくことを目的として、2017年7月に設置されました。

これまで大会に関する情報共有や連絡調整を行うとともに、協議会の下に部会を設置し、地域の自主的な取組の促進や大会に向けた事業推進について、具体的な協議を行ってまいりました。そうした協議の結果を気運醸成イベント等への参画や協力に生かし、その反省を踏まえながら、次の事業の改善に取り組んできたところです。

そうした中、昨年新型コロナウイルスが世界中に拡大し、史上初めて大会が1年延期となりました。感染拡大防止の観点から、体験イベントなどの実施が難しい状況が続いていますが、区における大会気運の醸成、そして大会後のレガシーの創出に向けて、引き続き委員の皆様の知見をお借りできればと存じます。

2週間後の7月23日には、いよいよオリンピックが開幕します。直前に迫った大会に関する情報共有も図っていきますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、次第に沿って進行を進めます。

次第の1、新委員の紹介です。

新たに、4団体において人事異動等による委員の入れ替わりがありましたので、新しい委員の皆様を紹介いたします。

<新委員の紹介>

ありがとうございました。

新しく委員になられた皆様、どうぞよろしく申し上げます。

続いて、次第の2、大会気運の醸成に関する区の取組みについてです。

大会に向けた気運醸成事業の実施状況及び大会後の事業予定等について、事務局より説明のうえ、それを受けて全体で意見交換を行いたいと思います。

はじめに、事務局より説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

では、資料2「東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の取組みについて」に沿って説明いたします。

1ページをご覧ください。

このロードマップの中で、気運醸成イベント等、中止した事業は灰色で記載しています。

続いて、2ページをお開きください。

本年度に予定していた体験イベント等の実施状況です。東京2020大会コミュニティライブサイト、メモリアルコレクション展、東京五輪音頭講習会については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、いずれも中止としました。

なお、このコミュニティライブサイトでは、大会の競技放映のほかに、区内団体や小中学生等がステージでパフォーマンスを披露する場を設ける予定でした。イベントの中止に伴い、発表の機会がなくなってしまったことを受け、各団体からパフォーマンスを映像で提出していたき、区施設に設置しているデジタルサイネージを活用して放映したいと考えています。

次に、3ページをご覧ください。

オリンピックの聖火リレーについてです。先日、都内公道での走行については、島しょ部を除いて中止という発表がありました。これに伴い、住友三角ビルで予定していた聖火リレーの出発式も中止となります。

公道走行の中止に伴い、セレブレーション会場で点火セレモニーが実施される予定です。新宿区で行われる7月23日は、都庁前の都民広場が会場となる旨を主催の組織委員会及び東京都より伺っていますが、詳細は未定となっています。

続いて、4ページです。

パラリンピックの聖火リレーは、今のところ実施の方向で調整を進めていますが、こちらも今後の感染状況等により変更となる場合があります。

現在の予定を説明いたします。8月20日、東京都におけるパラリンピック聖火リレーのスタ

ートの日程となりますが、同日の午前9時30分に区役所の本庁舎で採火式を行います。その後、聖火は13時に東京都庁をスタートして、歌舞伎町シネシティ広場にゴールするまで、30分程度のリレーが行われます。

5ページをご覧ください。

聖火リレーの到着地である歌舞伎町シネシティ広場においては、ミニセレブレーションを実施します。それから、東京都庁で都内の集火した火を区内の障害者福祉施設で展示する聖火ピジットも実施予定となっています。

続いて、6ページです。

子どもたちに向けた取組みの一つとして、クールネックタオルの製作です。7月中旬頃から、各小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園、保育園等で配布を予定しています。

なお、前回3月の協議会において、区立学校・園以外に通う子どもたちにも配布できないかというご意見がありましたので、再度検討した結果、希望者には特別出張所の窓口で配布するという形といたしました。私立の学校や外国人学校に通っている子どものほか、園に通っていない未就園児など、希望者には幅広く配布していきたいと考えています。

また、パラリンピック期間中に、伊那市の子どもたちとの交流事業を予定していましたが、こちらは残念ながら中止となりました。

次に、7ページをご覧ください。ボランティア活動の機会の創出です。令和元年度から新宿区独自のボランティア登録制度、新宿2020サポーターの登録を行ってきました。6月30日をもって新規の登録は終了しましたが、最終的に500名の方に登録していただいたところです。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年、今年とサポーターが活動できるイベントを実施できていない状況です。イベントの応募状況と今後の予定という表のとおり、イベントに対する参加希望は一定数得られているものの、その後イベントが中止になっているという状況が続いています。

大会終了後は、せっかく登録していただいたサポーターの皆様にとって、ここで終わりということではなく、今後につながるような取組みを進めていきたいと考えています。この点についても、委員の皆様からぜひご意見をいただければと考えています。

続いて、8ページです。

東京2020オリンピック・パラリンピック区民参画事業助成です。令和2年度は中止としましたが、令和3年度は4月8日から5月7日の日程で募集し、記載した16事業に交付決定を行いました。

一方、東京2020パブリックビューイング助成として、東京2020大会のパブリックビューイングを行う区内の団体に対して助成を行う予定でしたが、こちらは中止といたしました。

9ページをお開きください。

その他として、主に大会後の取組みについてご説明します。大会後は、これまでの大会気運醸成の活動等をまとめた報告書の制作や、大会の記憶を伝える銘板の設置などを実施します。

なお、現在区施設に設置しているシティドレッシングやデジタルサイネージについては、大

会後は撤去したり、別の事業に引き継いだりといった形で、進めていきたいと考えています。

最後に、本日は子どもたちの応援タペストリーを掲出しています。こちらは、コミュニティライブサイトの会場に飾るため、区内の40ある学校ごとに、オリンピックとパラリンピックそれぞれ1枚ずつ、大会に込めた子どもたちのメッセージとして絵を描いていただいたものです。その中から、数点をセレクトして本日展示しています。コミュニティライブサイトが中止となってしまったため、イベント会場での展示はできませんが、新宿スポーツセンターや特別出張所といった区施設での展示を予定しています。また、新宿駅の東西自由通路にあるサイネージでも紹介できるよう、関係各所と調整を進めています。

説明は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

ただいまの説明にあったように、オリンピックに関しては様々なイベントを中止せざるを得ないという厳しい状況に置かれていますが、パラリンピックに関しては、これからまだ検討する余地が多少残されていると思います。そういった状況をご理解くださいますようお願いいたします。

それでは、全体で意見交換の時間を持ちたいと思います。委員の方々からご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

【委員】

資料を拝見し、改めて様々なイベントが中止になって本当に残念なことと思っています。

区のお取組みとして一つ確認させていただきたいのですが、昨日、一都三県の無観客開催が決定されたことに伴い、新宿区の学校連携観戦プログラムについても中止となる方向でしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

昨日、改めて国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）、東京2020組織委員会、東京都、国の五者協議により、オリンピック期間中、都内会場では無観客開催ということが決定されたところです。

一方、新宿区で予定している学校連携観戦プログラムについては、ほとんどがパラリンピック競技の観戦という予定になっています。パラリンピックの観客がどうなるかについては、まだ明確になっていない状況です。現時点で取りやめということではありませんが、状況を見つつ、今後も引き続き慎重に検討していきます。

【委員】

ありがとうございます。

【吉住委員】

現在、教育委員会と議論を重ねているところですが、基本的には実行することありきでは考えていません。

熱中症対策については、様々な団体からご意見等をいただいておりますが、9月になるとその心配は少なくなってくると考えられます。

他方、区内の新型コロナウイルスの感染状況は常に注視していかなければなりません。ただ、大人であれば観戦後どこかへ飲みに行くという心配もありますが、子どもの場合はそういった心配はありません。また、公共交通機関の使用は控えるよう指示を受けていますが、新宿区や渋谷区は国立競技場が徒歩圏内の距離であり、区内の近くの学校を基点として徒歩で行ける範囲になっていますので、他の自治体とは全く状況が異なっています。

しかしながら、感染状況はもとより、子どもたち一人一人の意向を尊重したいと思います。行かなかったからと言って、欠席扱いにはなりません。子どもが無理やり連れて行かれて怖さを感じるという状況は避け、学校に残って授業をするということも選択肢に残さなくてはならないと思っています。

区のワクチン接種は、おかげさまで高齢者施設、医療機関とも既に終わっており、そこでクラスターが発生して死亡者が出るという事態はなくなってきています。若者の接種も概ね2万人程度まで進み始め、少しずつ感染予防に効果があるということが世界的にも分かってきました。こういった状況を見ながら、さらに接種を進められればと思います。

ただ、ワクチン供給が滞っています。現在、ワクチンの打ち手はいっぱいいるのですが、ワクチンが足りないという状況の中で、どの程度進められるか、総合的に判断していかなければならないと考えています。

基本的には、無理に実施することは考えていませんが、やめることを前提に進める段階にはまだないという認識です。

【委員】

この点については、保護者の方々が非常に心配していたこともあり、只今のご説明を聞いて安心しました。ありがとうございます。

【委員】

娘が小学校6年生で学校連携観戦プログラムの対象になっているかと思いますが、現在、GIGAスクール構想などにより、新宿区の学校ではICTの活用などが進んでいます。観戦ができなかった場合にも、オリンピック・パラリンピックの興奮を肌で感じられるようにオンラインで競技を観戦し、子どもたちの心に残るような体験ができる仕組みづくりをぜひ検討していただければと思います。

【村岡座長】

ただいまのご意見について、オンラインでの観戦が可能かどうか、教えていただけますか。

【酒井委員】

学校でどのような形で観戦できるかについては、今後の課題として考えています。先ほど吉住委員の説明にあったように、観戦プログラムは厳しい状況にありますが、一方で、ただ普通に授業を行っていけばいいとは思っていません。例えば、タペストリーにしてもそうですが、子どもたちが自分たちも参加した、同じ空気を吸ったというような、心の中に残るような経験をぜひ与えてあげたいと考えています。

【村岡座長】

それでは、三井特別アドバイザーから、ご発言いただけますでしょうか。

【三井特別アドバイザー】

いつもお世話になっています。

オリンピックの無観客開催が決定した状況も含めて、区のイベントの中止というものを見ると、すごく心苦しい思いがあります。色々な世論がある中で、大会をやっているのか、選手として試合に出ていいのか、多くのアスリートから不安の声を聞いています。

今回、区内の中学生、小学生に応援タペストリーを作っていただきましたが、このように大会を盛り上げていこうという思いが詰まったものが、アスリートの目に触れる機会が少ないと感じています。私は、現役のときにブラジルに行き、街の雰囲気はもちろん、こういった思いが詰まったものを少しでも目にするだけで、オリンピックのために作ってくれたこと、盛り上げてくれていることに大変感動しました。今回の東京大会でそういったことが難しいことはわかっているものの、選手たちの目に入るような場所に掲示したり、区のイベントの様子を映像で流していただくと、選手たちは応援してもらえているという気持ちになって、安心できると思います。選手たちからもそれを目にしたという声は必ず上がってくると思うので、直接コミュニケーションがとれなかったとしても、思い出に残る、記憶に残る大会になると思います。

もし可能であれば、ぜひそういった取り組みをしていただければ大変ありがたいです。

【村岡座長】

貴重なご意見、ありがとうございます。

事務局の方で、組織委員会や東京都と連携し、実現可能であればぜひお願いしたいと思います。それでは、部会長からご発言をいただけますでしょうか。

【鈴木副座長】

ボランティア部会から発言いたします。

事務局からの説明にあったとおり、新宿区独自のボランティアを募集し、500の方が登録されています。しかしながら、様々なイベントが中止となり、活躍する場がなくなってしまったという非常に残念な状況です。まだ若干、今後に向けてイベントが予定されているため、その中で少しでもボランティアに参加して応援したいというマインドや達成感を創出できるように、取り組んでいただきたいと思います。

もう一つ、この新宿2020サポーターは3年近くかけて募集をしてきました。オリンピック・パラリンピックで終わりではなく、こういった都市のイベントにおいて、区民の様々な参加の在り方を今後につなげていく仕掛けを考えていただきたいと思います。学校関係、商店会など大型のイベントが多々行われていると思いますが、色々な場面で人手不足という声をよく耳にします。強制するわけではありませんが、500人のサポーターに対して、そういった中に活躍する場があることを情報共有した上で、盛り上げ役となってもらえるような連携の在り方を考えていただきたいと思います。

区として、あるいはそれぞれの団体として、具体的に何ができるかということを変更して協議する場を設けていただきたいと思います。サポーターに登録していただいた500人の方々を決してこのまま手放さないように、これからも研修やメールマガジンでの連絡等を実施していただければと思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

パラリンピックのイベントに参加していただくことに加えて、大会終了後に地域社会で活躍していただけるような支援について、どのようなことが実施できるか、またこの場で検討する際には、ぜひご意見をお寄せいただければと思います。

続いて、普及啓発部会の方からお願いいたします。

【渡邊部会長】

普及啓発部会から発言いたします。

先ほども色々と意見が出ていたとおり、イベントが中止になってしまいましたが、実際参加するはずだった子どもたちにどういった経験を残せるかについて、これからまた検討しなければならぬと思っています。

区施設のデジタルサイネージを活用した子どもたちの動画の放映は、最低限のところと思いますが、動画を撮影する場所は、学校の音楽室や体育館など日常の場所であることがほとんどです。子どもたちに何か特別な現場の体験、「いつもではない場所で、こんな晴れ舞台があった」という記憶がしっかり残してほしいと思っています。子どもたちにとっては、区のイベント以外にも様々な学校行事が中止になり、学校の思い出の写真がどれだけ卒業アルバムに残るのかという心配があります。オリンピック期間中は難しいと思いますが、少なくとも年度内に、様々なチャンスを子どもたちに用意していただきたいと思います。

そもそもコミュニティライブサイトでは、注目競技の決勝等を放映する予定でした。先ほど学校でICTを活用しているというお話がありましたが、例えば、放映予定を事前に共有した上で、オンラインではありますが、記録の出る瞬間に立ち会ってもらう。せっかく日本でやっているのです、できるだけ録画ではなくて、場所は違えども同じ時間を共有するというような工夫をしていただけると良いのではないかと思います。

したがって、今後はオリンピックレガシーとして、9月以降にどういった取組みをしていくかという点について、検討していただきたいと思います。

【村岡座長】

貴重なご発言をありがとうございます。

オンラインでの放映と併せて、動画放映についてもぜひ検討していただければと思います。

ほかに、ご発言ございますでしょうか。

【委員】

これまで委員の皆様から、子どもたちのために大変ありがたいお話をいただきました。

陸上競技の女子1500mでオリンピックに出場するト部蘭選手は、娘が通っている早稲田小学

校の卒業生ということですが、お父様の仕事の関係で新宿区に引っ越してくる際に、学校でのマラソン大会が盛んという理由で早稲田小学校に転入されたと伺いました。

子どもたちが頑張っ街の中を走って、街の人たちが見守って、車を止めて、応援するという大会ですが、何パーセントかわかりませんがその延長線上にオリンピックへのつながりがあるということはすごく夢があると思います。三井特別アドバイザーのお話にあったとおり、出場を決めたときは皆で応援して、何かつながりを持つことができたなら良いと思っていましたので、観戦に行けないことはすごく残念です。

只今の皆様のお話のとおり、感染症が収束した後でも何か機会を作って、リアルな体験として子どもたちが思い出せるものができたらうれしいです。あれだけの思いで新宿区に完成した新しい国立競技場や、あの年にこんなことがあったということ子どもたちが思い出せるような何かができたら良いと思いますので、ぜひ皆様ご協力をお願いします。

【村岡座長】

ご意見ありがとうございます。

続きまして、次第の3、区からの情報提供についてです。

先ほども申し上げたとおり、東京2020大会の開催まで2週間となりました。そして昨日1都3県における無観客開催も決定されました。また、大会期間中の交通規制など新しい情報が次々に出てきている状況です。

大会に関する情報共有は、この協議会の設置目的の一つであり、各団体の今後の取組みにも関わってくることと思いますので、議題の一つとして、現時点における大会に関する情報をこの場で共有したいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、説明いたします。

はじめに、IOC、IPC、組織委員会、東京都、国の共同ステートメントについてです。昨日の五者協議を受けて、昨日付で新たなステートメントが公表されています。

今回の緊急事態宣言を受けて人流を抑制するとともに、感染拡大の防止に向けたより厳しい措置として、オリンピックは無観客とするという内容が記載されています。一方、パラリンピックの観客数の取扱いについては、オリンピックが閉会した後に決定することとなっています。

続いて、プレイブックの第3版についてです。

プレイブックは、例えば、アスリートやそれに伴って来日するスタッフ、それから報道・プレスの関係者等、海外から日本を訪れる方々に向けて、日本滞在中のルールを示したものとなっています。本文は、組織委員会のホームページに掲載されています。

第3版の行動管理ルールの強化としては、海外から来日された方々については、監督者の帯同やGPS管理など厳しい管理下に置かれることとなっています。また、宿泊する施設についても、感染症対策の要件、行動管理について定める「宿泊ガイドライン」への適合を組織委員会に認められる必要があります。それから、移動についても、公共交通機関を使うことはなく、

大会専用の移動手段や大会専用の車両を利用することが定められています。

次に、交通規制のお知らせについてです。

オリンピックスタジアムとなる国立競技場周辺の交通規制については、一部が6月8日から既にスタートしています。

会場エリア周辺は、セキュリティフェンスが設置されており、中には入れない形になっています。また、通行規制がかかっており、原則として車ででの通り抜けができない道路があります。さらに、う回エリアが設定されており、こちらは該当する道路に入れないわけではありませんが、立て看板などが置かれ、できるだけ競技会場の近くに車が集中しないようう回を促すような案内が行われています。

開会式・閉会式時については、オリンピックの開会式と閉会式、パラリンピックの開会式と閉会式、計4回、4日間にわたって交通規制が行われます。

それから、9月5日に実施されるパラリンピックのマラソン競技に伴う交通規制の案内です。パラリンピックのマラソン競技は、6時30分から最初のクラスがスタートし、6時30分、6時40分、6時50分とクラスごとにスタート時間が分かれています。このスタート時間に先立って4時30分から交通規制が実施され、交通規制の解除が10時45分頃という想定となっています。

いずれの交通規制の内容についても、組織委員会、東京都が周知を行っており、規制がかかる道路の沿道に対しては、ポスティング等による周知を行います。

最後に、難民選手団の事前キャンプの実施についてです。

前回のリオ大会からIOCが設置している難民選手団が、今回の東京大会でも結成されることになり、29名の選手が来日する予定になっています。国としては南スーダンやシリア、アフガニスタンといった国々の選手が来日する予定です。

選手団は7月14日から、早稲田大学の敷地内の宿泊施設に滞在する予定で、滞在中は感染症対策を徹底して行います。例えば、練習会場や食事会場等への移動については専用のバスを利用し、また、例えばコンビニに行って買い物をしたいという場合についても、別のスタッフが代わりに買い出しに行くといった形となり、選手は宿泊施設と練習会場以外のところには行かない、街中を出歩かないという管理を行うルールになっています。

本来、こういった状況でなければ、難民選手団と地元の皆様との交流といったことも事業として行うことができれば非常に良かったと思いますが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、このような管理を行うことになっています。なお、直接の交流はできませんが、幾つかの小学校に難民選手団に向けたメッセージを作っただき、早稲田大学の宿泊施設に掲出することで、交流を図っていくことを検討しています。

説明は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

只今の区からの情報提供について、ご質問などがございましたらお願いしたいと思います。また、その他の件でも構いませんので、委員の方々からご意見、ご要望などがございましたら、

お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

難民選手団による事前キャンプの実施について、地域へのチラシ配布はどの辺りまで行っているのでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

周知については、ここ数日でようやく早稲田大学と調整が整い、近日中に近隣の町会長様宛てに通知をお送りします。町会の中で掲示板や回覧板といった方法で、周知にご協力いただきたいというお願いをしているところです。

【村岡座長】

ありがとうございます。

【委員】

本来、スポーツ関係者として、スポーツに力を入れなければならない団体ですが、皆様御存じのように昨年から色々と規制があり、現在、新宿区においては小中学校の体育館等もいまだに開放されず、また、スポーツセンター、コズミックセンターなども施設の利用制限があり、なかなか屋内施設を使つてのイベントができない状態になっています。

また、屋外については、一部規制が緩和されて利用することもできますが、今スポーツ界では、各種団体におけるガイドラインのハードルが高く、なかなか人を集めることができません。区で行うイベントも推奨はしていますが、なかなか人を集めることができない状態となっています。

ただ、先ほどお話しにあった子どもたちのイベント等については、今後できるだけ多くの方に参加していただくということになれば、我々もできるだけ協力していきたいと思います。

現在、スポーツ関係はそのような状況で、非常にハードルが高いということを皆様にお知らせいたします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

区の方から何かお話しいただけることはございますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

本来であれば、オリンピックを契機に様々な体験をしていただき、そういったかけがえのない経験を今後の人生に生かしていただきたいという思いで、これまで委員の皆様のご意見をいただきながら事業を進めてきたところですが、区としても同様に、現在人を集める形式でのイベントが実施できない状況です。

先ほど渡邊部会長からもご発言いただきましたが、今後は大会中というところにこだわらず、大会後に人を集めてという形の事業が実施できるようになれば、区民の皆様に大会の雰囲気味わってもらえるような機会を創出できるよう、諦めずに引き続き検討を進めていきたいと考えています。もしそういった状況になれば、また区民協議会委員の皆様のお力も借りながら進めていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ほかにもございますでしょうか。

【委員】

少し前に、どうしてオリンピックはできるのに運動会はできないのかという新聞記事があり、PTA連合会の中で大きな話題になりました。

現在、新宿区の小学校では、運動会を実施しているところと実施していないところ、保護者の観覧ができる所とできない所があります。生徒が百数十人の学校と600人の学校とでは規模が異なるため、明確にこうすれば大丈夫というルールはなく、それぞれの学校で判断している状況です。そのため、子どもたちは言われたことを引き受けて、できなかったら仕方がないと諦め半分の部分があると思っています。

先ほどの話で、何かしてあげられたらという思いがありますが、現在オリンピック・パラリンピックが動いていることと、小学校で動いていることが今一つつながっていない、つながった説明がしづらい状況と思います。不公平が起きないように、ほかの学校はこんなことをやっていて、別の学校はこういう状況だという、横の情報共有だけはしっかり行っていきたいと思いますが、子どもたちがそういった状況にあることを協議会の皆様にも理解していただければと思います。

もう一点、色々と中止になったイベントがあったとしても、オリンピック・パラリンピックはスポーツを盛り上げ、スポーツは人の健康に大事なものです。現在、スポーツセンターの周りを走っている方、公園を使用する方など健康に気を使う方が多くなっています。例えば、新宿区で実施しているハーフマラソン等のイベントがオリンピックの後からすごく盛り上がったというように、大会を契機にして何か新宿区のスポーツが盛り上がったらうれしく思います。

【村岡座長】

ありがとうございます。

【酒井委員】

運動会について、基本的に緊急事態宣言中は、学年全体では実施せず、学年を分けて実施しています。そして、保護者の観覧は認めていません。まん延防止等重点措置期間中は、学年を分けて運動会を実施する点は同様ですが、観覧はその学年の保護者のみ認め、終了後はすぐに退場していただく、という形で実施をしています。様々なご意見がありますが、基本的に学校は全てそういった形式です。

先日、区長との連名で保護者宛ての緊急メッセージを発出しました。例えば、家庭で保護者の方が熱があるのに子どもを学校に登校させると、その後自分がPCR検査を受けて陽性が判明し、慌てて午後から子どもを休ませるといった話になります。このような場合に、感染のリスクが非常に高くなるという注意喚起です。

新宿区の状況としては、様々な場面で踏みとどまり、学校でのクラスターは発生していません。それだけ学校では厳しく手洗いやマスク着用等を徹底し、教室ごとに机の周りにシールド

を設置する学校もあるなど、各校で対策して何とか収まっているというところです。子どもたちのそういった努力が無にならないように、できるだけ保護者の方々にもご協力をいただきたいと思っています。

先ほどのご意見にもありましたが、子どもたちは本当によく我慢しています。我慢しないともっと制限が加わるような状況になってしまうことがよくわかっているからからこそ、子どもたちは我慢して様々な活動をしています。こうした状況について、ぜひご理解いただきたいと思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

ほかにごございますでしょうか。

【委員】

先ほど新宿シティハーフマラソンの話が出ましたので、少し触れさせていただきます。

新宿未来創造財団では、来年1月に国立競技場を発着とするハーフマラソンを計画しています。来年1月の感染状況がどうなるかはまだわからないところですが、大会が運営できるように調整を続けていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

【村岡座長】

どうも活発なご議論をいただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会いたします。

次回が当協議会の最終の開催となります。大会終了後の10月下旬頃を予定しておりますが、開催日時、場所等の詳細につきましては、後日事務局より改めてお知らせいたします。

それでは、閉会いたします。

<閉会>